

平成24年1月吉日

ご支援金を寄せていただいた皆様へ

福島の子どもを守ろうプログラム実行委員会
委員長 進士 徹

ふくしまキッズ冬の活動支援のお礼

拝啓

ふくしまキッズ冬プログラムは、1月8日をもって全日程終了しました。

昨年夏休みに引き続き、ふくしまキッズの活動がこの冬休みにも開催出来たことは、支援を寄せていただいた皆様の温かいご理解と賛同をいただけたからです。ここに篤くお礼を申し上げます。

今回は北海道・横浜・愛媛の3カ所での開催でした。それぞれが特徴を持って活動しました。

北海道＝雪の体験活動・ホームステイ・地域活動。 横浜＝野外体験活動・共同生活・地域活動。
愛媛＝地域体験活動・共同生活・地域活動。

様々な体験をおもいきり活動する事が出来ました。地域の方々や多くのボランティアの方々と貴重な時間を過ごすことで、人とのつながりの大切さを身につけることが出来ました。また放射線のことを心配しなくても食事を安心していただけることで確実に笑顔と元気を取り戻すことが出来たと確信しています。

参加した子ども達一人一人、受け地に親書を持って行きました。その親書というのは、福島で思うように外で遊ぶ事が出来ない、我慢の生活を送っていることをそれぞれが心に思うことを作文に書いてもらいました。親にも、子育てをしながら心の葛藤や悩みもありのまま綴ってもらいました。受入地に行き披露したことで、ふくしまキッズの活動の必要性を理解してもらいました。福島の子もだからこそ伝えられるメッセージがあると思ったからです。文中に、僕たちが大きくなって福島県が安全になったときに、支援を頂いた皆さんを招待したいです。是非福島に来てください・・・と記した子もいました。親書は今後の活動でも続けたいと思っています。

今回、実行委員会の悩んだのは、福島市は冬休みが極端に短く1週間しかありませんでした。参加を断念する事態も発生しました。この冬参加したかったけれど次の春休みのふくしまキッズには絶対参加したい！！と冬の説明会場にわざわざそれを伝えに来てくれた子どももいます。ふくしまキッズの活動がどれだけ、生きる希望になっているかという証でもあります。また今回参加した子ども、そして親御さんからも活動の継続を願う声が強く寄せられています。

活動中福島の子ども達に「生き抜く力が必要である。」と・・・単に「生きる力」ではなく子どもから青年になり、大人になった時に福島県出身ですと堂々と胸を張って言えるように育てたいです。そして将来の福島県を、日本を創りあげて行く事になります。大きな力となれるように今からそのメッセージを伝えなければと思っています。

この冬の活動については、後日会計報告及び活動内容の詳細を皆様にご報告させていただきます。また春休みに向けて私達も改善すべき点など更に磨きをかけて行く所存です。

今後も変わらぬご支援をお願いして、福島の子ども達を見守り育てていただければと思っています。ここに委員長のご挨拶とさせていただきます。

敬具